

## EV量産に向け、LiB部材の増強競争始まる

### ◆市場獲得を狙うLiB部材メーカーの増強計画が発表

リチウムイオン二次電池(LiB)部材メーカーから増産計画が相次いで発表され、2017～18年にかけて生産能力の増強が予定されている。数年前の増産ブームは、電気自動車(EV)の普及の遅れから低稼働が続き、余儀なく事業から撤退したメーカーもあった。今回は政府主導の環境対応車の導入もあり、いよいよ本格的なEV普及に向かう。調査会社によると、LiB部材は中国メーカーのシェアが高く(負極材・電解液は7割強、正極材6割、セパレーター4割強)、日系LiB部材メーカーは劣勢にあるが、増産や合弁などにより、厳しい競争に立ち向かう姿勢である。

#### 国内LiB部材メーカーの増産・設備増強、事業提携などの動き

	増産・設備増強	事業提携など
正極材	住友金属鉱山：磯浦(愛媛)・播磨(兵庫)で追加増強(16年10月発表、18年1月完成予定)	戸田工業・BASF：正極材事業を合弁化協議(16年8月発表) 住友化学：田中化学研究所を子会社化(16年8月発表)
負極材	昭和電工：大町(長野)でカーボン負極材増産(16年6月発表、16年末稼働予定)	—
セパレーター	住友化学：韓国で生産現行比4倍(17年8月以降) 宇部興産：堺(大阪)で設備増強(18年4月完工予定) 旭化成：守山(滋賀)で設備増強(18年上期商業運転開始予定)	東レ：東レバッテリーセパレーターを吸収合併(17年4月)
電解液	三井化学：名古屋で営業運転開始予定(17年4月)	宇部興産・三菱化学：中国で電解事業提携合意(16年10月発表)

各社プレスリリースより、ARC作成

### ◆現行LiB改良により、航続距離が採用の鍵となるか

車載用LiBの課題は、航続距離の拡大とコスト低減である。NEDOは30年に向けて、LiBを凌駕する革新型蓄電池の研究開発を進めているが、当面は現行LiBの部材改良により、エネルギー密度の向上と安全性が求められている。

米テスラ・モーターズは、17年にEV量産車「Model 3」の発売を予定している。中国ではEV普及政策として購入者に補助金を交付するEVバブル、欧州では排ガス不正問題の影響を受けてディーゼル車からEVへのシフトの動きがある。LiBの改良により航続距離を競う欧州勢や電池業界の再編、市場投入のタイミングに合わせて部材の提供をどう進めるか、注視していきたい。 【米山久美子】